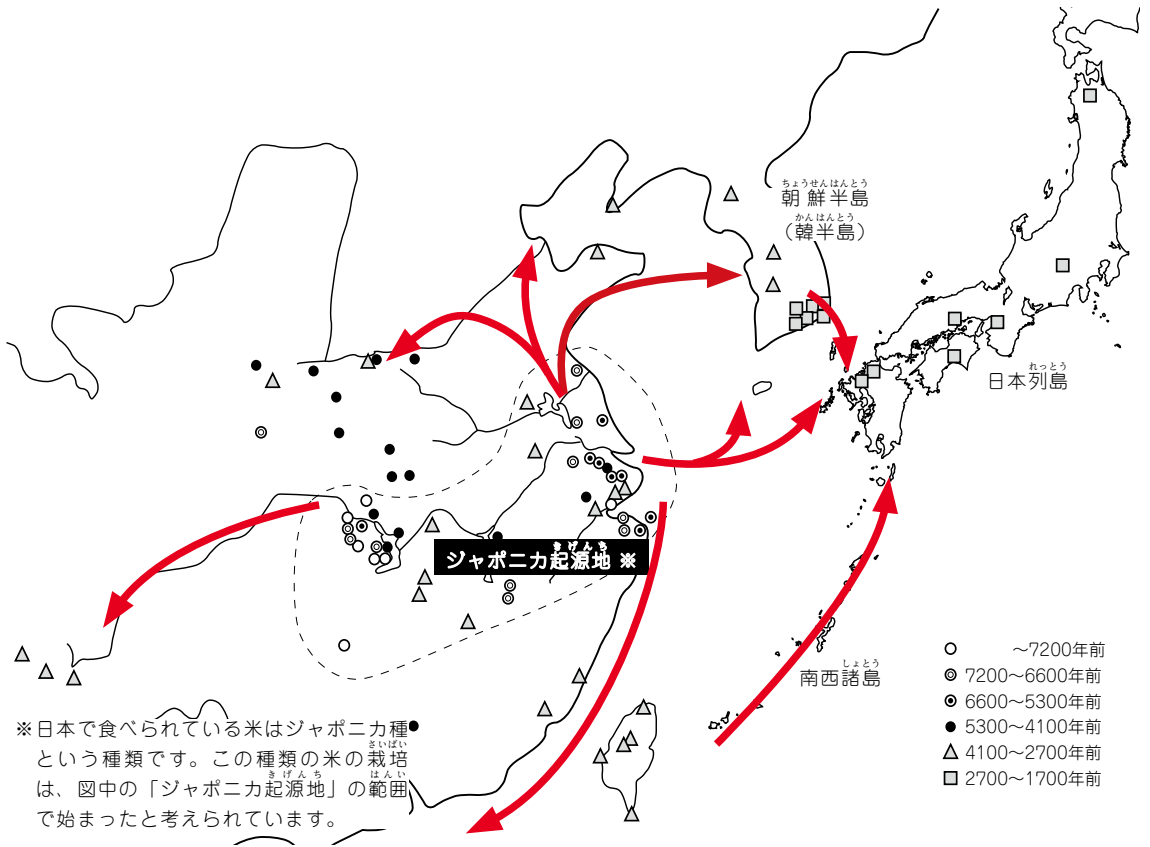


米つくりの始まり



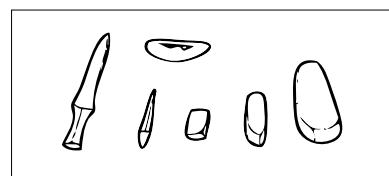
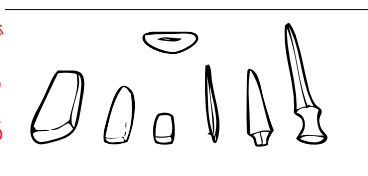
米つくりはどこからやってきた

水田での米つくりは、弥生時代に中国大陸や朝鮮半島（韓半島）から海を越えて日本に伝わってきました。

☆ 米つくりは、どんなところをとおって広がったのか、パネルを見て地図の中に矢印を書きこんでみよう。

☆ 展示してある石の道具（石器）は、右と左で見つかった場所が違うけれどよく似ているよ。このことから2つの地域の間で人々の交流があったことがわかるんだ。どこで見つかったのか（ ）に地名などを書きこんでみよう。

左のものは九州島で、右のものは朝鮮半島で見つかったものということが分かるのであれば正解。



右

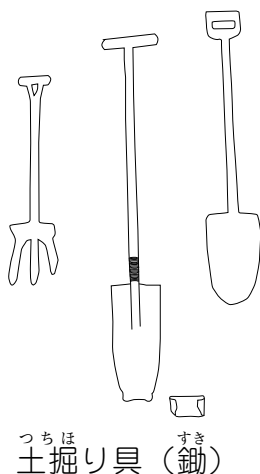
※海を越えていること（佐賀県、菜畑遺跡、）に気づいてもらえたら 福岡県など と思います。

（朝鮮半島、韓半島、） 韓国など

弥生の米づくり

弥生時代の大きな特徴として、水田での米づくりが始まったことがあげられます。どんなようすであったかは、発掘調査で見つかったもの（展示してある道具など）や、今も行なわれている日本や東南アジア各地の農業（かべのパネル）などからわかります。日本の伝統的な米づくりの作業の多くが、すでに完成していたことがわかります。

☆ かべに展示してある「土掘り具（鋤）」は、今のスコップとよく似ているよ。でも、今のものと違うところもあるよ。どんなところが似ていて、どんなところが違うのか、気がついたことを [] に書いてみよう。



- ・全体の形が、今のスコップとそっくりである。
- ・今のスコップは刃先が鉄なのに、弥生時代の鋤は木でできている。
- ・土をすくう部分が、今のスコップは丸くくぼんでいるのに、弥生時代の鋤は平らである。

などなど

☆ 「春の水田風景」「秋の水田風景」の模型では、弥生時代の米づくりのようすを春と秋に分けて表現しています。今の米づくりとくらべて、同じところや違うところ、気がついたことを [] に書いてみよう。

- ・トラクターなどの機械がない。
- ・牛や馬といった、人間のいうことを聞く動物がない。人がすべての作業をしている。
- ・機械や牛馬のいない以外では、今の米づくりと似ているところが多い。
- ・多くの人々が作業にかかわり、力を合わせている。
- ・稲の収穫が、実った稲穂だけを選んで刈りとっている。

などなど